



吉田 徹 水産部門（水産土木）

勤務先：日本データサービス 株式会社

私は青森県の上北郡にある陸奥湾に面した野辺地町で生まれ、北海道の広大な自然と豊かな海が好きになり、大学進学とともに北海道に住み始めて17年目となります。1995年（平成7年）に現在の会社に入社し、漁港・港湾の施設整備に係わる気象・海象および水域環境・海生生物などの調査・解析に携わってきました。もともと海（マリンスポーツ）が好きで、大学進学と同時に小型船舶免許を取得していたのが仕事にも役立ち、海域における現地調査において調査船の運転をすることも多いのですが、やはり実際の現場を見ないと漁港・港湾周辺で起こっている問題等を解決するヒントが見えてこないことを痛感しました。

漁港や港湾周辺で問題となっている環境の変化は、現地調査による観測や解析した結果のみでは現状を把握できたとしても、なぜ問題となるような状況となっているのかを解明することは非常に難しいと考えております。問題に対する原因を解明するためには、現地でのヒアリング等による情報収集や港周辺における環境の変化にも目を向け、幅広い情報を総合的に見ることにより解決策を発見できると思っております。

今後も“問題解決のヒントは現場にある！”を念頭に置き、自己技術の研鑽に励むとともに、微力ながらも新たな技術者の育成に貢献できる技術士として頑張っていきたいと考えております。



次号は、櫻井 泉さん（水産部門）



川嶋 道彦 建設部門（都市及び地方計画）

勤務先：株式会社 サンコー緑化

技術士の資格は平成5年道庁現職の時、先にとった後輩に刺激されて挑戦。大きな運とちょっとした要領の良さで予想外の合格。総て仕事に恵まれた結果なので感激はイマイチ。平成8年、造園の仕事を思いっきりやりたくて、道庁を50歳で早期退職。周りからはこれから厳しくなる世の中になんで今、民間に？と。賢者の言うとおり、平成10年をピークに公共事業は年々減少の一途。おまけに北海道の都市公園整備率は全国一。本当は見かけの数字なれど、財政危機の今、取りあえず「みどり」は不急との判断。加えて、これからは維持管理の時代というのに維持費は大幅削減。幹線道路の植樹帯至るところでなんと！アスファルト帯に変身。美しい街づくりこそが急がれるのに、これで良いのか観光立国目指す北海道。『貧すれば鈍する』とは正にこのこと。「街の外に出れば緑いっぱいだろうさ」というのが道民意識の本質か。自然のままの観光スポットだけが売り物の前時代的な観光施策。折角の美しい農村景観も、目立つことばかり狙った広告塔と建築物で台無しに。高齢化と人口減少待った無し。遅きに失したか景観緑3法。一筋の光明は〈ガーデンアイランド北海道2008〉や〈シーニックバイウェイ〉など民の知恵と力を結集したプロジェクト。いまさら公共事業に頼るのは愚の骨頂。「国~~廃~~れて山河あり」とならぬよう、今こそ立ち上がれ！我らランドスケープアーキテクトチャー。



次号は、竹内正志さん（建設部門）